

7-2 北方合戦と安藤守就 (社会)

戦国時代に北方の地で繰り広げられた北方合戦とはどのようなもので、北方城主安藤守就は、どんな戦いをしたのか調べてみよう。

1. 安藤守就とはどのような人物なのでしょう。

守就は戦国時代の武将で、齊藤道三・織田信長に仕え、稲葉一鉄・氏家ト全と共に「美濃三人衆」と呼ばれた一人です。三人の中でも一番年上で、いくつもの戦いを経験し、勝ち抜いてきた武将であったために、二人からも慕われていたといえます。



【安藤守就戦死の地】

2. 安藤守就と稲葉一鉄が戦わなければいけなかったのは、どうしてですか。

織田信長がこの辺りを治めていたころ、北方城主は守就でした。世の中は戦国時代です。信長以外にも天下をねらっている武将がたくさんいました。その中の一人が武田信玄です。1580年（天正8年）、守就の子、尚就は武田方に手紙を送ったとの疑いをもたれ、信長の怒りにふれました。その結果、守就・尚就親子は谷口村にある汾陽寺（現在の関市武芸川町谷口）から出ることを禁じられます。その後、信長から北方城主を任されたのが稲葉一鉄でした。

1582年（天正10年）6月2日、京都の本能寺で信長が自害すると、守就は北方城へ戻ろうとします。しかし、いくら親しい守就とはいえ、今の城主である一鉄は黙って城を明け渡すことはできません。守就と一鉄は戦い、いわゆる北方合戦となるのです。6月7日夕方か

ら8日夜中にわたる戦いは壮絶なもので、守就軍の死者150人、一鉄軍の死者200人以上になりました。しかし、もともと数の多い一鉄軍に、守就の軍勢は押されていきます。最後は、守就自身が敵に切り込みましたが、千代母ヶ淵（今の北子ども館裏辺り）で首を取られ戦死します。守就84歳のことです。

一鉄にとって、守就は共に戦いをくぐりぬけてきた仲間だったので、手下に命じ亡骸を龍峰寺（岐阜市網代）に手厚く葬ります。

3. 北方様（通姫）は、どのような人物なのでしょう。

通姫は安藤守就が北方城を治めていたころ、守就の弟（郷氏）の妻として40年ほど北方に住んでいました。通姫は北方合戦の後、北方城を離れ、子（可氏）とともに山内一豊（通姫の弟）のもとに身を寄せていました。

江戸時代になり、一豊は土佐藩の藩主となりました。一豊は通姫の実子である可氏を初代宿毛城主（現在の高知県宿毛市）にして、6300石を与え、重臣として起用しました。通姫は可氏の屋敷の近くに住んでいました。宿毛の人々からは「北方様」と呼ばれ、慕われていました。そして、1606年（慶長11年）に74歳の生涯を閉じ、妙栄寺境内に葬られました。

【通姫（北方様）の略年表】

- 1533年 山内盛豊の長女として誕生
- 1545年 北方の安藤郷氏に嫁ぐ
- 1582年 北方合戦の最中に竹中半兵衛の居城に避れる。
- 1585年 実弟の一豊に長浜城によばれる
- 1590年 実弟の一豊とともに掛川城に入城
- 1601年 可氏、宿毛城主となる
- 1606年 通姫死去



【高知県宿毛市の妙栄寺にある通姫の墓地】

★話を聞いて感じたことを書こう
